

プロポーザル方式設計発注に反映すべき事項の整理

(1) 木材利用の意義と目的について

本庁舎の建設にあたり、木材利用の意義と目的については、以下のような視点が提示された。

- ① 森の循環的利用と木材利用をどう結びつけていくかという視点が重要。本庁舎建設プロジェクトが、森の循環と木材利用の長期ビジョンづくりのきっかけとしたい。
- ② 地域振興の視点から、林業、素材生産業、製材業、建設業、設計業の関連分野の事業者が積極的に係わっていくことが望ましい。
- ③ 地元の木を使うことでシンボリックな庁舎としたい。木の温かみや柔らかさを通じて、市民が地元の森や木材へ愛着心を持つようになるのではないかと。
- ④ 山がうごくことで環境貢献のシンボルにもなりうる。CO₂の削減なども目標になりうる。

以上のような視点が提示されたが、基本計画の策定にあたり、これらの点の検討を深化させ、プロポーザル要綱づくりに反映させることが望ましい。

(2) 市民との認識共有のプロセスについて

市民が自分達の庁舎と認識するプロセスは非常に重要である。本庁舎がシンボルと認識されるためには、認識を共有するプロセスが必要とされる。そのプロセスを組み立て、プロポーザルの募集に反映させることが重要である。

市民と行政の認識の共有プロセスの具体的展開については、以下のようなアイデアが提示された。

- ① 本庁舎だけでなく、今後、継続して地域の森の木を使って公共施設をつくるという流れをつくることできれば、市民のコンセンサスを形成しやすい。
- ② プロポーザルの募集は、地域の森の木を使うことの波及効果をメッセージとして発信できるよう、基本計画から設計のプロセスの一環として組み立てることが望ましい。
- ③ プロポーザルの募集にあたって、地域の森の木を使って公共施設をつくることの理念やテーマを掲げ、提案を求めることが望ましい。
- ④ プロポーザルの募集の中で、設計段階における住民との意見交換の進め方の提案を求めることが考えられる。

(3) 市有林の立木情報の提供について

プロポーザルの募集にあたっては、その基礎情報として、使用する市有林の情報、生産される木材の情報が提供させることが、その意義と目的を深く考えることを促すうえで重要である。その際、提供する情報は、設計者の視点から翻訳し、設計者にとって有用な情報に変換して提示することが求められる。

(4) 本庁舎の建築構造について

土地面積の制約から、階数は4～5階建てとなり、RC造と想定されているが、小屋組みの木造化、玄関部分など一部の木造化などの可能性は残されている。したがって、プロポーザルの募集にあたっては、構造を限定せず、自由な発想で提案を求めることが望ましい。

(5) 設計事務所の選定について

プロポーザルの募集にあたっては、木造に詳しく意欲ある設計事務所を選定するか、実績をふまえて顕実な設計事務所を選定するか、方針の分かれるところであり、十分に検討する必要がある。

木造に詳しく意欲ある設計事務所を選定する方針の場合には、指名参加要件、実績要件の設定に工夫が必要である。また、応募者側は審査員の人選を見て主催者の意図を図っており、その方針に沿った審査員の人選に配慮が望まれる。